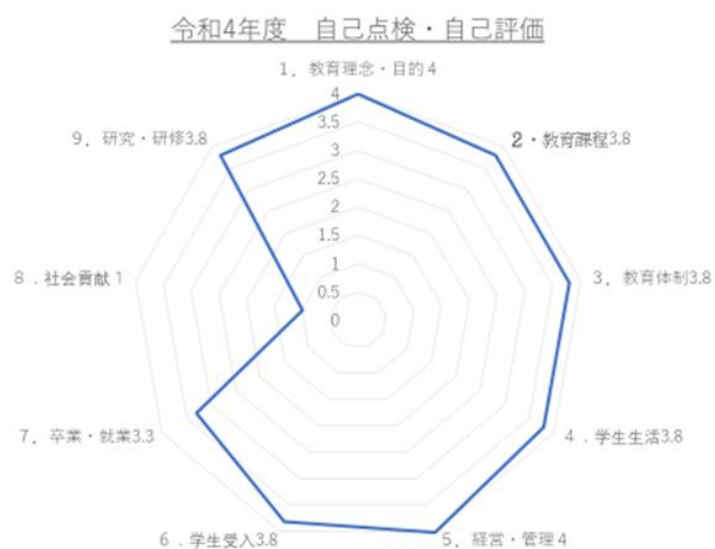


三重看護専門学校 自己点検・自己評価結果（令和4年度）

評価は4段階

（4：よくできている 3：できている 2：多少課題がある 1：かなり課題がある）



領域	評価点
I 教育理念・教育目的・教育目標	4.0
II 教育課程の考え方	3.8
III 教育体制	3.8
IV 学生生活	3.8
V 経営・管理	4.0
VI 入学生の受け入れ	3.8
VII 卒業・就業・進学の様況	3.3
VIII 社会貢献	1.0
IX 研修・研究活動	3.8

平均点：3.47点

(総評)

令和4年度の各項目の総合評価は上記のチャートが示すように平均点は3.47(4点満点中)であった。8.の項目社会貢献以外は高得点を示している。

本年度より1年生は新カリキュラムがスタートし、教育理念・目的・目標の表現を現代の社会ニーズに沿って療養の場の多様化、多職種連携など地域で活躍できる人材を育てることから表現を若干変えた。更に、科目間の関連性が意識できるようにカリキュラム・マップを作成し、シラバスに明示した。教育課程では、近年の学生のレディネスを踏まえ新しく「社会人基礎論」を科目に組み入れ、授業以外にも定期的に評価チェックシートを利用し学生・教員ともに年2回振り返る機会を作り、今後評価していく。

授業は対面授業を基本とし、新型コロナウイルス感染者、濃厚接触者をオンライン授業とした。コロナ禍も3年目になりオンライン授業も支障なく利用できるようになった。個々の学生への支援は学年担当とチューター教員がフォローしているが、低学力の学生が増えているため、1年次からの学習習慣の確立、学習計画立案、補習などの取り組み方の検討が必要になってきている。今年度は、学生の主体的な学びを支援するための動画配信システムの導入を検討、次年度より活用することを決定した。コロナ禍の中、1年生は運動会、2年生は球技大会、3年生はクリスマス会などレクリエーションを実施することで学生のストレスを発散させ、学習意欲向上へと繋げた。今後も計画が必要と考える。

各科目の授業評価に対しては、本年度は手書きからスマートフォンでのWeb入力に切り替え、個人を特定できないようにした。しかし、回収率が悪く、最終授業終了時に時間を取って入力させたり、何度も呼びかけることで回収率を80%台に引き上げた。

防災では、フローチャートの見直し、教員の役割と動きを再確認、更に学生の防災委員を結成し、避難訓練及び災害動画を視聴させ意識向上に努めた。訓練は今後も繰り返し必要である。

本年度卒業生36名は全員看護師国家試験に合格。市内就職率は58.3%、当校の目標である60%を切った。4月当初は41名であったが退学、休学、留年なども要因である。今後も就職先が偏らないように教員全員が学生の動向に関心を持ち、就職への援助を怠らない努力が必要である。学生募集は年々厳しくなり、受験者も減少している。本年度の高校訪問は対面、業者の進学相談会参加、市内高校へのミニ講座(看護師の役割)参加、オープンキャンパス2回(対面)実施、インスタグラムの活用を行っている。又、指定校評定の見直し、指定校の追加を実施したが、いかにして学生を集めるか、文化祭の復活、SNSを利用して動画配信を増やすなど当校の魅力を発信させるための方策を今後も随時検討が必要である。

最後に、評価点が少なかった社会貢献のボランティア・地域への貢献は昨年同様コロナ禍のため実習施設や医師会行事への参加が中止となったため低い評価点となった。1年生

一部が昨年引き続き献血への参加を実施した。今後は新型コロナも5類へと移行することで社会の動きも緩和され、教員のボランティア活動が可能になると期待している。教員の役割はますます多様化している。学生が主体的に学べるための支援ができるように今後も研鑽を怠らず努力していく必要がある。